

‘南柑20号’の植調剤利用による浮皮軽減技術 (ジベレリン・ジャスモメート液剤の混用処理)

‘南柑20号’は、近年温暖化や極端気象の影響によって浮皮果の発生が増加している。新たな浮皮軽減技術であるジベレリン（GA）とジャスモメート液剤（PDJ）混用処理は、一定の浮皮軽減効果が認められ、本県の温州ミカン産地において導入が進んでいる。

健全果



浮皮果

使用方法

- 使用時期：9月上旬から中旬
- 使用濃度：ジベレリン液剤 2500～5000倍
ジャスモメート液剤 1000～2000倍
- 散布量：200～300L
(浮皮になりやすい外周部を中心に散布)

【使用事例】八幡浜市内の南柑20号
GA2ppm+PDJ2000倍（2015年9月10日処理）

表 果実品質

処理区	糖度 (° Brix)	クエン酸含量 (g/100ml)	果皮色 (a*値)	浮皮指数 ^x (0無-3甚)	着色指数 ^y (0緑-10橙)
ジベレリン液剤2500倍 +ジャスモメート液剤2000倍	12.4	1.04	31.9	38.5	98.6
無処理	12.1	0.99	32.4	46.7	99.7
t検定 ^z	n. s.	n. s.	n. s.	*	n. s.

^x 浮皮指数 = (Σ(浮皮程度別果数×浮皮程度) / (着果数×3)) × 100, (浮皮程度: 0無-3甚)

^y 着色指数 = (Σ(着色歩合別果数×着色歩合) / (着果数×10)) × 100, (着色歩合: 0緑-10橙)

^z * 5%水準で有意差あり, n. s. は5%水準で有意差なし

※処理条件によっては、着色が遅延する場合がありますので注意が必要である